

ファルコホールディングス (コード 4671)

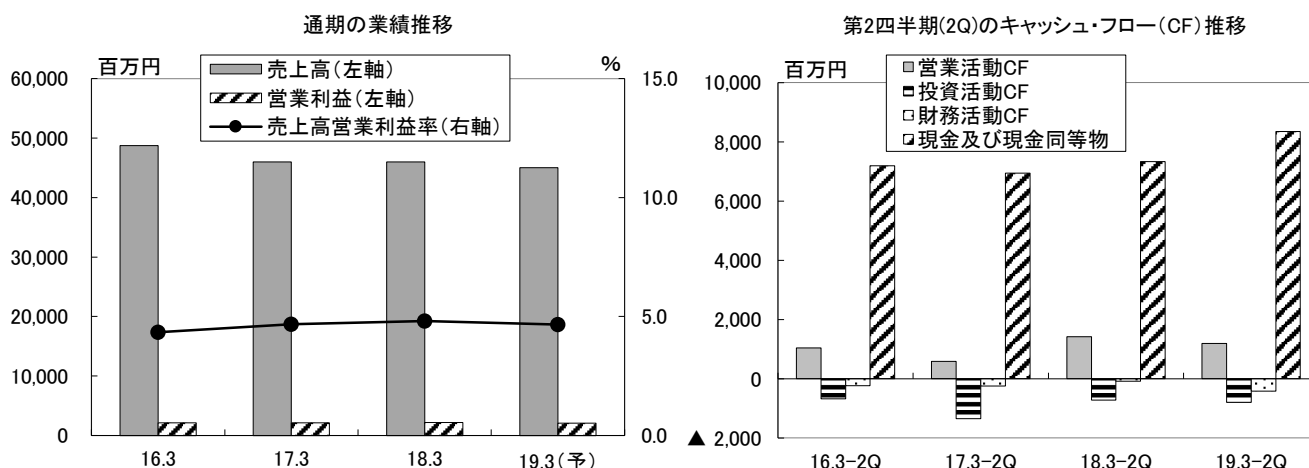
◆各決算期の第2四半期業績推移(連結)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	24,007	927	47.7	18.5	1,043	▲678	▲236	7,191
17.3	23,240	1,039	60.6	19.0	591	▲1,346	▲242	6,942
18.3	22,934	1,185	72.7	20.0	1,423	▲720	▲80	7,331
19.3	22,082	710	48.3	23.0	1,196	▲800	▲414	8,353

◆通期業績推移(連結) (19.3 予は会社側予想)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
16.3	48,727	2,114	120.4	38.0	2,009	▲874	▲250	7,945
17.3	45,971	2,148	133.9	40.0	1,220	▲1,802	▲653	6,709
18.3	45,962	2,211	156.1	44.0	2,321	▲615	▲41	8,371
19.3予	45,000	2,100	128.5	46.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)

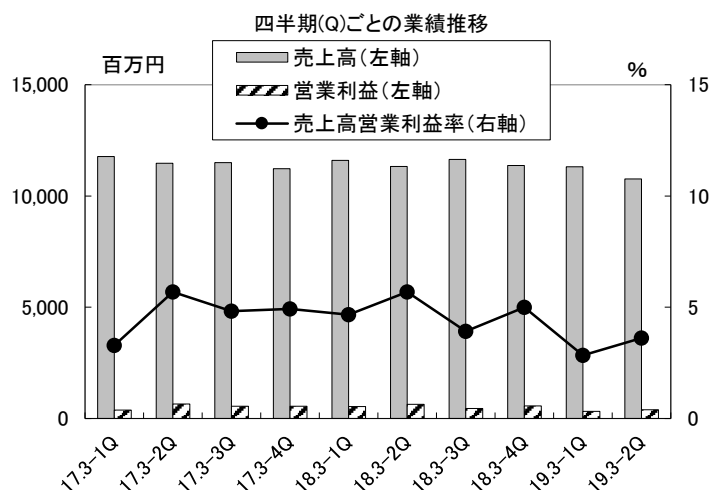


19年3月期の第2四半期業績概況…19年3月期の第2四半期累計期間(18年4~9月)の業績は、売上高220億8,200万円(前年同期比3.7%減)、営業利益7億1,000万円(同40.1%減)、経常利益8億6,900万円(同30.4%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、四半期純利益)5億2,600万円(同33.3%減)となった。調剤報酬及び薬価の改定の影響が大きかった調剤薬局事業が減収・大幅減益となったほか、臨床検査事業においても天候不順の影響による受託検体数の伸び悩みにより、減収減益になった。1株当たり当四半期末配当金は、前年同期末実績に比べて3円増の23円となっている。

セグメント別の売上高は、臨床検査事業137億7,800万円(前年同期比1.1%減)、調剤薬局事業83億1,200万円(同7.7%減)となった(他に、調整額で700万円マイナス)。臨床検査事業においては、電子カルテ「HAYATE/NEO」の売上が増加したものの、夏以降の猛暑や豪雨・台風等の天候不順の影響により、臨床検査の受託検体数は前年同期比2.1%減、受託単価も同0.1%減となったことから、同事業の売上高は減少した。調剤薬局事業では、当第2四半期累計期間中に1店舗開局、2店舗閉局したことにより、18年9月末の調剤薬局店舗数は110店舗(FC店5店舗を含む)となった。また、18年4月に実施された調剤報酬及び薬価の改定の影響が大きく、処方箋単価は前年同期比5.9%減となったほか、処方箋枚数も同2.0%減となっ

たことから、同事業の売上高は減少した。

利益面では、セグメント別の営業利益が、臨床検査事業 5 億 1,600 万円（前年同期比 16.9% 減）、調剤薬局事業 2 億 9,600 万円（同 55.0% 減）となった（他に、調整額で 1 億 200 万円マイナス）。臨床検査事業においては、「HAYATE/NEO」の売上増があったものの、臨床検査の伸び悩みにより売上高が減少したことから、営業利益も減益に。調剤薬局事業においては、18 年 4 月の調剤報酬・薬価の改定の影響が大きく、営業利益は大幅な減益になった。また、営業外収益で受取補償金が 8,000 万円（前年同期は無し）計上されたことなどから、経常利益、四半期純利益については営業利益に比べて減益率が小さくなっている。



キャッシュ・フロー（以下、CF）の状況については、当四半期末の現金及び現金同等物残高は 83 億 5,300 万円（前年同期末比 13.9% 増）となった。営業活動 CF では、税金等調整前四半期純利益が 8 億 6,600 万円（前年同期比 31.6% 減）、売上債権の減少額が 8 億 1,300 万円（同 1,113.4% 増）、たな卸資産の増加額が 1 億 8,500 万円（前年同期は減少額 2,800 万円）、仕入債務の減少額が 4 億 3,900 万円（前年同期比 485.3% 増）、法人税等の支払額が 3 億 6,000 万円（同 7.5% 増）となったことなどにより、営業活動に伴う収入は 11 億 9,600 万円（同 16.0% 減）になった。投資活動 CF では、有形固定資産の取得による支出が 5 億 2,300 万円（同 145.5% 増）、無形固定資産の取得による支出が 1 億 2,200 万円（同 41.9% 減）、投資有価証券の取得による支出が 1 億 4,300 万円（同 66.2% 減）となったことなどから、投資活動に伴う支出は 8 億円（同 11.1% 増）に。財務活動 CF では、長期借入金の返済による支出が 1 億 7,200 万円（同 60.7% 増）、配当金の支払額が 2 億 6,800 万円（同 17.5% 増）に増加したほか、前年同期に 3 億円あった短期借入金の純増額が当期には無かったことなどから、財務活動に伴う支出は 4 億 1,400 万円（同 417.5% 増）に急増した。

**19 年 3 月期の通期業績見通し**…19 年 3 月期の通期業績については、売上高 450 億円（前期比 2.1% 減）、営業利益 21 億円（同 5.0% 減）、経常利益 22 億円（同 7.8% 減）、親会社株主に帰属する当期純利益 14 億円（同 17.5% 減）の見通しで、18 年 5 月 11 日時点での会社側予想値から変更されていない。1 株当たり年間配当金は前期実績から 2 円増の 46 円の予定。

セグメント別の通期売上高見通しは、臨床検査事業 281 億円（同 1.1% 増）、調剤薬局事業 169 億円（同 7.1% 減）に。また、セグメント別の通期営業利益見通しは、臨床検査事業 12 億円（同 22.4% 増）、調剤薬局事業 10 億 5,000 万円（同 25.2% 減）となっている（他に調整額で 1 億 5,000 万円マイナス）。

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などにに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。